

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	神林不動産鑑定株式会社
みなかみ(県)-1	群馬県	群馬第 1	氏名	不動産鑑定士 神林 宏明
鑑定評価額	4,420,000 円	1 m ² 当たりの価格	13,400 円/m ²	

1 基本的事項

(1)価格時点	令和 7年 7月 1日	(4)鑑定評価日	令和 7年 7月 4日	(6) 路線 価	[令和 7年 1月]	円/m ²
(2)実地調査日	令和 7年 6月 15日	(5)価格の種類	正常価格		路線価又は倍率 倍率種別	1.1 倍
(3)鑑定評価の条件	更地としての鑑定評価					

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1) 基準地	所在及び地番並びに「住居表示」等		利根郡みなかみ町上津字村主 1 2 4 0 番 3 外				地積 (㎡)	330 ()	法令上の規制等					
	形状	敷地の利用の現況	周辺の土地の利用の状況	接面道路の状況	供給 処理施設 状況	主要な交通施設との 接近の状況		(都) (70, 400)						
	1.2:1	住宅 W2	月夜野バイパスに近い郊外の一般住宅地域	東10m県道	水道	後開 2.6km		(その他)						
(2) 近隣 地域	範囲	東 250 m、西 250 m、南 100 m、北 150 m			標準的使用	戸建住宅地								
	標準的画地の形状等		間口 約 19.0 m、奥行 約 17.0 m、規模			320 ㎡程度、形状 長方形								
	地域的特性	特記 事項	農家住宅と一般住宅が散在する月夜野バイパス背後の住宅地域	街 路	基準方位 北 1 0 m 県道	交通 施設	後開駅 南西方2.6km		法令 規制	(都) (70, 400)				
	地域要因の 将来予測		周囲を農地等に囲まれた集落形態の住宅地域であるが、一部道路改良が進み、コンビニも近くに移転し、利便性がやや向上した。しかし高齢化と人口減から実需に乏しく、地価は下落基調で推移と思料する。											
(3)	最有効使用の判定					戸建住宅地		(4)対象基準地の個別的要因	方位 +2.0					
(5)鑑定評価の手法の適用	取引事例比較法		比準価格			13,400 円/㎡								
	収益還元法		収益価格			/ 円/㎡								
	原価法		積算価格			/ 円/㎡								
	開発法		開発法による価格			/ 円/㎡								
(6)市場の特性	同一需給圏はみなかみ町と沼田市を含む利根沼田地域一円の住宅地域である。主である需要者は利根沼田地域に居住、勤務する一次取得者層が大半を占める。月夜野地区の中心部からは遠隔にある郊外住宅地域で、周囲には農地も多いため集落的色彩が強い。利便性に劣るほか、過疎化が進行し不動産実需は減少している。需要の中心となる価格帯は、土地が4 0 0 ~ 6 0 0 万円、新築の建売分譲などは見られない。													
(7)試算価格の調整・検証及び鑑定評価額の決定の理由	近隣地域は一般住宅や農家住宅が主体の住宅地域で、賃貸需要が見込めないことから共同住宅を想定することは現実的ではないため収益還元法は適用しなかった。基準地に係る需要者は居住環境と市場動向を重視して行動するものと思料されるので、取引事例から求められた比準価格は規範性が高いものと判断した。従って、比準価格を採用し、指定基準地との検討を踏まえて鑑定評価額を上記の通り決定した。													
(8) 公示 価格	□ 代表標準地 □ 標準地 標準地番号		時点 修正	標準化 補正	地域要因の比較	個別的要因の比較	対象基準地の規準価格 (円/㎡)	内 訳	標準化補正	街路 交通 環境 画地 行政 その他	地域要因	街路 交通 環境 行政 その他		
	公示価格 円/㎡		[] 100	100 []	100 []	[] 100								
(9) 指定 基準 地	指定基準地番号		時点 修正	標準化 補正	地域要因の比較	個別的要因の比較	対象基準地の比準価格 (円/㎡)	内 訳	標準化補正	街路 交通 環境 画地 行政 その他	0.0 0.0 0.0 0.0 0.0	地域要因	街路 交通 環境 行政 その他	-6.0 -1.0 +41.0 0.0 0.0
	みなかみ(県)-3 前年指定基準地の価格 17,400 円/㎡		[99.4] 100	100 [100.0]	100 [131.2]	[102.0] 100	13,400							
(10) 対象 基準 地の 前年 標準 価格 等か	-1 対象基準地の検討 ■ 継続 □ 新規 前年標準価格 13,500 円/㎡			変 動 状 況 要 因	一般的要因 [] 県北端部の観光業・農業を中心とする山間の町。人口は減少傾向。高齢化・過疎化が顕著。									
	-2 基準地が共通地点（代表標準地等と同一地点）である場合の検討 □ 代表標準地 □ 標準地 標準地番号 公示価格 円/㎡				地域要因 [] 近年、一部道路改良が進み、コンビニも近くに移転され、利便性・安全性がやや向上。									
	変動率 年間 -0.7 % 半年間 %				個別的要因 [] 個別的要因に変動はない。									

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	(有) 石川不動産鑑定士事務所
みなかみ(県)-2	群馬県	第 1	氏名	不動産鑑定士 石川 直美
鑑定評価額	6,040,000 円	1 m ² 当たりの価格	10,400 円/m ²	

1 基本的事項

(1) 価格時点	令和 7年 7月 1日	(4) 鑑定評価日	令和 7年 7月 3日	(6) 路線価	[令和 7年 1月]	円/m ²
(2) 実地調査日	令和 7年 6月 16日	(5) 価格の種類	正常価格		路線価又は倍率 倍率種別	1.1 倍
(3) 鑑定評価の条件	更地としての鑑定評価					

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1) 基準地	①所在地及び地番並びに「住居表示」等		利根郡みなかみ町羽場字廻戸 8 5 5 番 4				②地積 (㎡)	581 ()	⑨法令上の規制等		
	③形状	④敷地の利用の現況	⑤周辺の土地の利用の状況	⑥接面道路の状況	⑦供給処理施設状況	⑧主要な交通施設との接近の状況		都計外			
	1:2	住宅 W2	国道背後の農家住宅と一般住宅が混在する住宅地域	西3.5m未舗装町道	水道	後閑 4.6km		(その他) (土砂災害警戒区域)			
(2) 近隣地域	①範囲		東 100 m、西 50 m、南 70 m、北 80 m		②標準的使用		低層住宅地				
	③標準的画地の形状等		間口 約 16.5 m、奥行 約 35.0 m、規模		581 ㎡程度、形状 ほぼ整形						
	④地域的特性	特記事項	国道、河川に近く、住宅の他に畑も混在する地域。	街路	基準方位 北 3.5m町道	交通施設	後閑駅 西方4.6km	法令規制	都計外 (土砂災害警戒区域)		
	⑤地域要因の将来予測		今後も低層住宅地域としての利用が見込まれる。周囲の環境の変化は少なく、当面は現況を維持すると予測される。								
(3) 最も有効使用の判定	低層住宅地					(4) 対象基準地の個別的要因	方位 0.0				
(5) 鑑定評価の手法の適用	取引事例比較法		基準価格 10,400 円/㎡								
	収益還元法		収益価格 / 円/㎡								
	原価法		積算価格 / 円/㎡								
	開発法		開発法による価格 / 円/㎡								
(6) 市場の特性	同一需給圏はみなかみ町郊外の圏域で戸建住宅、農家住宅等が混在する住宅地域。需要者はみなかみ町在住者が多く、町外転入者は少ない。みなかみ町は全般的に人口が減少傾向に有り特にみなかみ町郊外の利便性の劣る地区では不動産の需要は低迷し、地価は下落傾向を示している。市場の中心となる価格帯は土地が600万円前後、新築戸建で2,000～2,500万円前後である。										
(7) 試算価格の調整・検証及び鑑定評価額の決定の理由	比準価格は類似地域において多数の価格牽連性の有る取引事例を収集選択し比準を行った実証性の有る価格である。また基準地の存する地域は戸建住宅中心であり、賃貸市場の成熟度が低く、賃貸需要が見込めない地域であるため、収益価格は求めなかった。近隣地域は自用目的の取引が主で、居住の快適性を重視する住宅地域であるので、比準価格を採用し、指定基準地との検討を踏まえ、鑑定評価額を上記の通り決定した。										
(8) 公示価格	① ☐ 代表標準地 ☐ 標準地 標準地番号		②時点修正	③標準化補正	④地域要因の比較	⑤個別的要因の比較	⑥対象基準地の規準価格 (円/㎡)	⑦内訳 標準化補正	街路 交通 環境 画地 行政 その他	地域要因	街路 交通 環境 行政 その他
	公示価格 円/㎡		[] / 100	100 []	100 []	[] / 100					
(9) 指定からの検討	①指定基準地番号		②時点修正	③標準化補正	④地域要因の比較	⑤個別的要因の比較	⑥対象基準地の比準価格 (円/㎡)	⑦内訳 標準化補正	街路 0.0	地域要因	街路 +3.0
	みなかみ(県)-3								交通 0.0		交通 +1.0
	前年指定基準地の価格 17,400 円/㎡		[99.4] / 100	100 [101.0]	100 [163.9]	[100.0] / 100	10,400		環境 0.0		環境 +53.0
(10) 対象基準地の前年標準価格等	①-1 対象基準地の検討 ■ 継続 ☐ 新規 前年標準価格 10,500 円/㎡			③ 価格形成要因の変動状況	[一般的要因]		景気は回復傾向だが不確定要素も存在する。みなかみ町の人口は減少傾向で相対的に需要が弱い住宅地の地価は下落傾向を示している。				
	①-2 基準地が共通地点（代表標準地等と同一地点）である場合の検討 ☐ 代表標準地 ☐ 標準地 標準地番号 公示価格 円/㎡				[地域要因]		近隣地域の地域要因の変動は特に無いが、選好性の弱い地域の地価は未だ下落傾向に有る。				
	②変動率 年間 -1.0 % 半年間 %				[個別的要因]		個別的要因に変動はない。				

鑑定評価書（令和7年地価調査）

令和7年7月9日提出
みなかみ(県)-3 宅地-1

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	神林不動産鑑定株式会社
みなかみ(県)-3	群馬県	群馬第1	氏名	不動産鑑定士 神林 宏明
鑑定評価額	4,720,000 円	1㎡当たりの価格	17,300 円/㎡	

1 基本的事項

(1)価格時点	令和7年7月1日	(4)鑑定評価日	令和7年7月4日	(6)路線価	[令和7年1月] 路線価又は倍率 倍率種別	円/㎡ 1.1 倍
(2)実地調査日	令和7年6月15日	(5)価格の種類	正常価格			
(3)鑑定評価の条件	更地としての鑑定評価					

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1) 基準地	所在及び地番並びに「住居表示」等		利根郡みなかみ町下牧字矢瀬 5 7 5 番 6				地積 (㎡)	273 ()	法令上の規制等				
	形状	敷地の利用の現況		周辺の土地の利用の状況		接面道路の状況	供給処理施設状況	主要な交通施設との接近の状況		(都) (70, 400)			
	台形 1:2	住宅 W1		中規模の農家住宅、一般住宅が見られる住宅地域		北東4.3m町道	水道	後閑 2.5km	(その他) (70, 258)				
(2) 近隣地域	範囲		東 50 m、西 40 m、南 200 m、北 120 m				標準的使用		戸建住宅地				
	標準的画地の形状等			間口 約 11.0 m、奥行 約 20 m、規模 220 ㎡程度、形状 長方形									
	地域的特性	特記事項	商業施設に接近した県道背後の住宅地域		街路	基準方位 北 4 . 3 m町道		交通施設	後閑駅 北西方2.5km	法令 (都) (70, 258) 規制			
	地域要因の将来予測		大型スーパーに近接しており、利便性の良い地域で、町の高齢化と人口減少の影響は比較的少なく、地価下落幅は、みなかみ町内においては相対的にやや小さく推移すると思料する。										
(3) 最有効使用の判定	戸建住宅地						(4) 対象基準地の個別的要因	方位 +1.0					
(5) 鑑定評価の手法の適用	取引事例比較法		比準価格 17,300 円/㎡										
	収益還元法		収益価格 / 円/㎡										
	原価法		積算価格 / 円/㎡										
	開発法		開発法による価格 / 円/㎡										
(6) 市場の特性		同一需給圏はみなかみ町と沼田市を含む利根沼田地域一円の住宅地域である。需要者は当町を中心に利根沼田地域に居住、勤務する一次取得者層が大半を占める。月夜野地区の中心部からやや離れて位置する住宅地域であるが、周辺には大型スーパーが存在するため利便性に恵まれている。そのため過疎化傾向にあるものの、月夜野地区内での選好性は相対的に高い。需要の中心となる価格帯は、土地が 4 0 0 ～ 6 0 0 万円、新築の戸建住宅 1 8 0 0 ～ 2 0 0 0 万円前後。											
(7) 試算価格の調整・検証及び鑑定評価額の決定の理由		近隣地域は一般住宅や農家住宅等が主体の住宅地域で、賃貸需要は見込めず共同住宅を想定することは現実的でないため収益還元法は適用しなかった。対象基準地に係る需要者は居住環境と市場動向を重視して行動するものと考えられるので、取引事例から求められた比準価格は規範性が高いものと思料する。従って、比準価格を採用し、類似性ある公示地価格との均衡や前年価格との変動率も勘案して、鑑定評価額を上記のとおり決定した。											
(8) 公示価格	標準価格とした	□ 代表標準地 □ 標準地 標準地番号		時点修正	標準化補正	地域要因の比較	個別的要因の比較	対象基準地の規準価格 (円/㎡)	内訳	標準化補正	街路交通環境画地行政その他	地域要因	街路交通環境行政その他
		公示価格 円/㎡		[] 100	[] 100	[] 100	[] 100						
(9) 指定からの検討	指定基準地	指定基準地番号		時点修正	標準化補正	地域要因の比較	個別的要因の比較	対象基準地の比準価格 (円/㎡)	内訳	標準化補正	街路交通環境画地行政その他	地域要因	街路交通環境行政その他
		前年指定基準地の価格 円/㎡		[] 100	[] 100	[] 100	[] 100						
(10) 対象基準地の検討	標準価格等からの変動率	-1 対象基準地の検討				価格形成要因の変動状況	一般的要因 県北端部の観光業・農業を中心とする山間の町。人口は減少傾向。高齢化・過疎化が顕著。						
		■ 継続 □ 新規 前年標準価格 17,400 円/㎡					地域要因 特にない。						
		-2 基準地が共通地点（代表標準地等と同一地点）である場合の検討					個別的要因 個別的要因に変動はない。						
		□ 代表標準地 □ 標準地 標準地番号 公示価格 円/㎡											
		変動率	年間	-0.6 %	半年間	%							

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	神林不動産鑑定株式会社
みなかみ(県)-4	群馬県	群馬第1	氏名	不動産鑑定士 神林 宏明
鑑定評価額	7,620,000 円	1 m ² 当たりの価格	14,600 円/m ²	

1 基本的事項

(1)価格時点	令和 7年 7月 1日	(4)鑑定評価日	令和 7年 7月 4日	(6) 路線 価	[令和 7年 1月]	円/m ²
(2)実地調査日	令和 7年 6月 15日	(5)価格の種類	正常価格		路線価又は倍率 倍率種別	1.1 倍
(3)鑑定評価の条件	更地としての鑑定評価					

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1) 基準地	所在地及び地番並びに 「住居表示」等		利根郡みなかみ町月夜野字東原 9 3 5 番 3				地積 (㎡)	522 ()	法令上の規制等					
	形状	敷地の利用の現況		周辺の土地の利用 の状況		接面道路の状況	供給 処理施 設状況	主要な交通施設との 接近の状況		(都) (70, 400)				
	1:1.5	住宅 W2		上毛高原駅に比較的 近い県道背後の戸建 散在地域		西4m町道	水道	上毛高原 1.1km		(その他) (70, 240)				
(2) 近隣 地域	範囲	東 100 m、西 50 m、南 50 m、北 150 m				標準的使用	戸建住宅地							
	標準的画地の形状等		間口 約 18.0 m、奥行 約 30.0 m、規模				540 ㎡程度、形状 長方形							
	地域的特性	特記 事項	上毛高原駅に比較的近い住 宅地域		街 路	基準方位北 4 m 町道	交通 施設	上毛高原駅 南東方1.1km		法令 規制 (都) (70, 240)				
	地域要因の 将来予測		生活利便性や居住環境の劣る月夜野地区の住宅地域で、今後も概ね現状維持にて推移と予測する。地価は人口減少等を 反映して下落傾向にて推移すると予測する。											
(3) 最も有効使用の判定	戸建住宅地						(4)対象基準地 の個別的要 因	方位 +1.0						
(5)鑑定評価の手法 の適用	取引事例比較法		基準価格 14,600 円/㎡											
	収益還元法		収益価格 / 円/㎡											
	原価法		積算価格 / 円/㎡											
	開発法		開発法による価格 / 円/㎡											
(6)市場の特性	同一需給圏はみなかみ町と沼田市を含む利根沼田地域一円の住宅地域。需要者の中心は町内及び周辺市町在住の居住を 目的とした第一次取得者層または地縁関係者。生活利便性や居住環境の劣る住宅地域であり、高齢化・過疎化が進行し ていること等から需要は極めて弱含みの状態にある。取引件数が少ないため、市場での中心価格帯の把握は困難な状況 である。													
(7)試算価格の調整 ・検証及び鑑定 評価額の決定の 理由	周辺には共同住宅は見受けられず戸建住宅が中心で収益性よりも居住の快適性や利便性が重視される地域である。取引 は少ないものの居住目的が大半で信頼性のある事例を収集し得た。なお、山間農村部であり賃貸市場が成立してい ないため収益価格は求められなかった。よって、基準価格を採用し、指定基準地及び類似の標準地との検討を踏まえ、鑑定 評価額を上記のとおり決定した。													
(8) 公示 価格 とした	□ 代表標準地 □ 標準地 標準地番号		時点 修正	標準化 補正	地域要 因の比 較	個別的 要因の 比較	対象基準地 の規準価格 (円/㎡)	内 訳	標準 化補 正	街路 交通 環境 画地 行政 その他	地域 要因	街路 交通 環境 行政 その他		
	公示価格 円/㎡		[] 100	100 []	100 []	[] 100								
(9) 指定 基準 地の 検討	指定基準地番号		時点 修正	標準化 補正	地域要 因の比 較	個別的 要因の 比較	対象基準地 の比準価格 (円/㎡)	内 訳	標準 化補 正	街路 交通 環境 画地 行政 その他	0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0	地域 要因	街路 交通 環境 行政 その他	
	みなかみ(県)-3													
	前年指定基準地の価格 17,400 円/㎡		[99.4] 100	100 [100.0]	100 [120.0]	[101.0] 100	14,600							
(10) 対象 基準 地の 前	-1 対象基準地の検討 ■ 継続 □ 新規 前年標準価格 14,800 円/㎡				価格 変動 状況 要因の	一般的 要因	県北端部の観光業・農業を中心とする山間の町。人口は減少 傾向。高齢化・過疎化が顕著。							
	-2 基準地が共通地点（代表標準地等と 同一地点）である場合の検討 □ 代表標準地 □ 標準地 標準地番号 公示価格 円/㎡					地域 要因	上毛高原駅に比較的近い県道背後の戸建散在地域。特に変動 はない。							
	変動率 年間 -1.4 % 半年間 %					個別的 要因	個別的要因に変動はない。							

鑑定評価書（令和7年地価調査）

令和7年7月9日提出
みなかみ(県)-5 宅地-1

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	有限会社武井清不動産鑑定事務所
みなかみ(県)-5	群馬県	第1	氏名	不動産鑑定士 武井 清
鑑定評価額	2,000,000 円	1㎡当たりの価格	10,300 円/㎡	

1 基本的事項

(1)価格時点	令和7年7月1日	(4)鑑定評価日	令和7年7月8日	(6)路線価	[令和7年1月] 路線価又は倍率 倍率種別	円/㎡ 1.1 倍
(2)実地調査日	令和7年6月16日	(5)価格の種類	正常価格			
(3)鑑定評価の条件	更地としての鑑定評価					

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1) 基準地	所在及び地番並びに「住居表示」等		利根郡みなかみ町大穴字北原 3 4 2 番				地積 (㎡)	194 ()	法令上の規制等				
	形状	敷地の利用の現況		周辺の土地の利用の状況		接面道路の状況	供給処理施設状況	主要な交通施設との接近の状況		(都) (70, 400)			
	1:1.2	住宅 W1		一般住宅のほか農地、未利用地等も見られる住宅地域		南東4.1m町道	水道	湯檜曾 1.5km	(その他) (70, 246)				
(2) 近隣地域	範囲	東 50 m、西 100 m、南 200 m、北 100 m				標準的使用	低層住宅地						
	標準的画地の形状等		間口 約 13 m、奥行 約 15 m、規模		200 ㎡程度、形状 長方形								
	地域的特性	特記事項	農地や未利用地等も見られる住宅地域。		街路	基準方位北 4 . 1 m町道	交通施設	湯檜曾駅 南方1.5km	法令規制	(都) (70, 246)			
	地域要因の将来予測		山間部の住宅地域で農地や未利用地も多く見られる。地域要因の大きな変化はなく、当面は現状のまま推移し、地価の下落傾向はしばらく続くものと予測する。										
(3) 最有効使用の判定	低層住宅地						(4) 対象基準地の個別的要因	方位 +3.0					
(5) 鑑定評価の手法の適用	取引事例比較法	比準価格 10,300 円/㎡											
	収益還元法	収益価格 / 円/㎡											
	原価法	積算価格 / 円/㎡											
	開発法	開発法による価格 / 円/㎡											
(6) 市場の特性	同一需給圏はみなかみ町及び隣接沼田市に存する住宅地域で、需要者層はみなかみ町に在住または勤務する個人が中心である。圏内需要は低迷している。近隣地域は山間部の住宅地域で農地や未利用地も多く見られ、土地取引が少なく、圏内と同様に需要は低迷している。取引が少ないため売買の中心価格帯の把握は困難である。												
(7) 試算価格の調整・検証及び鑑定評価額の決定の理由	比準価格は地域類似性、価格牽連性等の認められる取引事例を採用し、これに補修正を行い、かつ地域要因の比較を行って求められた実証的かつ客観的な価格である。収益価格については賃貸市場の熟成度が低く、賃貸需要が見込めないため適用することができなかった。以上より、市場の実態を反映した比準価格を採用して、標準地及び指定基準地との検討を踏まえ、鑑定評価額を上記のとおり決定した。												
(8) 公示価格を標準とした	□ 代表標準地 ■ 標準地 標準地番号 みなかみ-4		時点修正	標準化補正	地域要因の比較	個別的要因の比較	対象基準地の標準価格 (円/㎡)	内訳 標準化補正	街路 0.0	地域要因	街路 -2.0		
	公示価格 12,100 円/㎡		[98.4] 100	100 [100.0]	100 [119.1]	[103.0] 100	10,300		交通 0.0		交通 -2.0		
(9) 指定からの検討	指定基準地番号		時点修正	標準化補正	地域要因の比較	個別的要因の比較	対象基準地の標準価格 (円/㎡)	内訳 標準化補正	街路 0.0	地域要因	街路 0.0		
	みなかみ (県) -3								交通 0.0		交通 0.0		
	前年指定基準地の価格		[99.4] 100	100 [101.0]	100 [171.0]	[103.0] 100	10,300		環境 0.0		環境 +71.0		
	17,400 円/㎡								画地 +1.0		行政 0.0		
(10) 対象基準地の検討	-1 対象基準地の検討 ■ 継続 □ 新規 前年標準価格 10,600 円/㎡				価格変動要因の	[一般的要因]	景気は持ち直しているが、米国の通商政策の影響による景気の下振れリスク、近時の物価上昇による景気の下押しリスクが懸念される。						
	-2 基準地が共通地点 (代表標準地等と同一地点) である場合の検討 □ 代表標準地 □ 標準地 標準地番号 公示価格 円/㎡						[地域要因]	過疎化の進む住宅地域で、特筆すべき地域要因の変化は見られず、需要は弱い状態が続いている。					
								[個別的要因]	特筆すべき個別的要因の変動はない。				
	変動率 年間 -2.8 % 半年間 %												

鑑定評価書（令和7年地価調査）

令和7年7月9日提出
みなかみ(県)-6 宅地-1

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	有限会社武井清不動産鑑定事務所
みなかみ(県)-6	群馬県	第1	氏名	不動産鑑定士 武井 清
鑑定評価額	4,900,000 円	1㎡当たりの価格	15,600 円/㎡	

1 基本的事項

(1)価格時点	令和7年7月1日	(4)鑑定評価日	令和7年7月8日	(6)路線価	[令和7年1月] 路線価又は倍率 倍率種別	円/㎡ 1.1 倍
(2)実地調査日	令和7年6月16日	(5)価格の種類	正常価格			
(3)鑑定評価の条件	更地としての鑑定評価					

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1) 基準地	所在及び地番並びに「住居表示」等		利根郡みなかみ町川上字浦和 2 0 番 2 1				地積 (㎡)	314 ()	法令上の規制等				
	形状	敷地の利用の現況		周辺の土地の利用の状況		接面道路の状況	供給処理施設状況	主要な交通施設との接近の状況		(都) (70, 400)			
	1.2:1	住宅 W2		一般住宅の中に空地が見られる住宅地域		西6m町道	水道、下水	水上 2.3km		(その他) (土砂災害警戒区域) (70, 360)			
(2) 近隣地域	範囲	東 10 m、西 50 m、南 60 m、北 100 m				標準的使用	戸建住宅地						
	標準的画地の形状等		間口 約 20 m、奥行 約 15 m、規模		300 ㎡程度、形状 ほぼ整形								
	地域的特性	特記事項	空地も見られる住宅地域であり、土砂災害警戒区域に該当している。		街路	基準方位北 6 m町道		交通施設	水上駅 南方2.3km		法令規制	(都) (土砂災害警戒区域) (70, 360)	
	地域要因の将来予測	一般住宅を中心に空地も見られる住宅地域であり、需要の弱い状態が続いている。地域要因の変化なく、当面は現状のまま推移し、地価は下落傾向にて推移するものと予測する。											
(3) 最有効使用の判定	戸建住宅地						(4) 対象基準地の個別的要因	方位	+1.0				
(5) 鑑定評価の手法の適用	取引事例比較法	比準価格		15,600 円/㎡									
	収益還元法	収益価格		/ 円/㎡									
	原価法	積算価格		/ 円/㎡									
	開発法	開発法による価格		/ 円/㎡									
(6) 市場の特性		同一需給圏はみなかみ町及び隣接沼田市に存する住宅地域で、需要者層はみなかみ町に在住または勤務する個人が中心である。圏内需要は低迷している。近隣地域は一般住宅を中心に空地も見られる住宅地域であり、土地取引が少なく、圏内と同様に需要は低迷している。取引が少ないため売買の中心価格帯の把握は困難である。											
(7) 試算価格の調整・検証及び鑑定評価額の決定の理由		比準価格は地域類似性、価格牽連性等の認められる取引事例を採用し、これに補修正を行い、かつ地域要因の比較を行って求められた実証的かつ客観的な価格である。収益価格については賃貸市場の熟成度が低く、賃貸需要が見込めないため適用することができなかった。以上より、市場の実態を反映した比準価格を採用して、標準地及び指定基準地との検討を踏まえ、鑑定評価額を上記のとおり決定した。											
(8) 公示標準価格とした	規格	□ 代表標準地 ■ 標準地 標準地番号 みなかみ-3		時点修正	標準化補正	地域要因の比較	個別的要因の比較	対象基準地の標準価格 (円/㎡)	内訳	標準化補正	街路 0.0 交通 0.0 環境 0.0 画地 0.0 行政 0.0 その他 0.0	地域要因	街路 -3.0 交通 +2.0 環境 -2.0 行政 0.0 その他 0.0
		公示価格 15,200 円/㎡		[98.4] 100	100 [100.0]	100 [97.0]	[101.0] 100	15,600					
(9) 指定からの基準地検討	規格	指定基準地番号 みなかみ (県) -3		時点修正	標準化補正	地域要因の比較	個別的要因の比較	対象基準地の標準価格 (円/㎡)	内訳	標準化補正	街路 0.0 交通 0.0 環境 0.0 画地 +1.0 行政 0.0 その他 0.0	地域要因	街路 -3.0 交通 -4.0 環境 +19.0 行政 0.0 その他 0.0
		前年指定基準地の価格 17,400 円/㎡		[99.4] 100	100 [101.0]	100 [110.8]	[101.0] 100	15,600					
(10) 対象基準地の検討	年標準価格等	-1 対象基準地の検討 ■ 継続 □ 新規 前年標準価格 16,000 円/㎡			価格変動要因の形成要因	[一般的要因] 景気は持ち直しているが、米国の通商政策の影響による景気の下振れリスク、近時の物価上昇による景気の下押しリスクが懸念される。							
		-2 基準地が共通地点 (代表標準地等と同一地点) である場合の検討 □ 代表標準地 □ 標準地 標準地番号 公示価格 円/㎡				[地域要因] 空地も見られる住宅地域で、特筆すべき地域要因の変化は見られず、需要は弱い状態が続いている。							
		変動率 年間 -2.5 % 半年間 %				[個別的要因] 特筆すべき個別的要因の変動はない。							

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	(有)石川不動産鑑定士事務所
みなかみ(県)-7	群馬県	第1	氏名	不動産鑑定士 石川 直美
鑑定評価額	3,430,000 円		1㎡当たりの価格	12,600 円/㎡

1 基本的事項

(1)価格時点	令和 7年 7月 1日	(4)鑑定評価日	令和 7年 7月 3日	(6)路線価	[令和 7年 1月]	円/㎡
(2)実地調査日	令和 7年 6月 16日	(5)価格の種類	正常価格		路線価又は倍率	1.1 倍
(3)鑑定評価の条件	更地としての鑑定評価					

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1) 基準地	所在及び地番並びに「住居表示」等		利根郡みなかみ町猿ヶ京温泉字新田裏 1 0 0 5 番 4				地積 (㎡)	272 ()	法令上の規制等				
	形状	敷地の利用の現況	周辺の土地の利用の状況	接面道路の状況	供給処理施設状況	主要な交通施設との接近の状況		都計外					
	1:2	住宅 W2	一般住宅、農家住宅が混在し未利用地も多い地域	北西4m町道	水道、下水	後閑 15km		(その他) (土砂災害警戒区域)					
(2) 近隣地域	範囲	東 120 m、西 30 m、南 50 m、北 100 m				標準的使用	低層住宅地						
	標準的画地の形状等		間口 約 11.0 m、奥行 約 24.0 m、規模		272 ㎡程度、形状 ほぼ整形								
	地域的特性	特記事項	国道背後で住宅、畑、未利用地等が混在する地域。	街路	基準方位 北 4 . 0 m町道	交通施設	後閑駅 北西方15km	法令規制	都計外 (土砂災害警戒区域)				
	地域要因の将来予測		今後も低層住宅地域としての利用が見込まれる。周囲の環境の変化は少なく、当面は現況を維持すると予測される。										
(3)	最有効使用の判定		低層住宅地				(4)対象基準地の個別的要因	方位		0.0			
(5)鑑定評価の手法の適用	取引事例比較法		比準価格		12,600 円/㎡								
	収益還元法		収益価格		/ 円/㎡								
	原価法		積算価格		/ 円/㎡								
	開発法		開発法による価格		/ 円/㎡								
(6)市場の特性	同一需給圏はみなかみ町郊外の圏域で戸建住宅、農家住宅等が混在する住宅地域。需要者はみなかみ町在住者が多く町外転入者は少ない。みなかみ町は全般的に人口が減少傾向に有り、特にみなかみ町郊外の利便性の劣る地区では不動産の需要は低迷し、地価は下落傾向を示している。市場の中心となる価格帯は土地が3 0 0 万円～5 0 0 万円前後、新築戸建で2 , 0 0 0 ～2 , 5 0 0 万円前後である。												
(7)試算価格の調整・検証及び鑑定評価額の決定の理由	比準価格は類似地域において多数の価格牽連性の有る取引事例を収集選択し比準を行った実証性の有る価格である。また基準地の存する地域は戸建住宅中心であり、賃貸市場の成熟度が低く、賃貸需要が見込めない地域であるため、収益価格は求めなかった。近隣地域は自用目的の取引が主で、居住の快適性を重視する住宅地域であるので、比準価格を採用し、指定基準地との検討を踏まえ、鑑定評価額を上記の通り決定した。												
(8)公示価格とした	□ 代表標準地 □ 標準地 標準地番号		時点修正	標準化補正	地域要因の比較	個別的要因の比較	対象基準地の規準価格 (円/㎡)	内訳 標準化補正	街路 交通 環境 画地 行政 その他	地域要因	街路 交通 環境 行政 その他		
	公示価格 円/㎡		[] 100	100 []	100 []	[] 100							
(9)指定基準地の検討	指定基準地番号		時点修正	標準化補正	地域要因の比較	個別的要因の比較	対象基準地の比準価格 (円/㎡)	内訳 標準化補正	街路 交通 環境 画地 行政 その他	0.0 0.0 0.0 +1.0 0.0 0.0	地域要因	街路 交通 環境 行政 その他	0.0 +10.0 +20.0 +3.0 0.0
	みなかみ(県)-3												
	前年指定基準地の価格 17,400 円/㎡		[99.4] 100	100 [101.0]	100 [136.0]	[100.0] 100	12,600						
(10)対象基準地の前年標準価格等の検討	-1 対象基準地の検討 ■ 継続 □ 新規 前年標準価格 12,800 円/㎡			価格変動要因の形成状況	[一般的要因]		景気は回復傾向だが不確定要素も存在する。みなかみ町の人口は減少傾向で相対的に需要が弱い住宅地の地価は下落傾向を示している。						
	-2 基準地が共通地点(代表標準地等と同一地点)である場合の検討 □ 代表標準地 □ 標準地 標準地番号 公示価格 円/㎡				[地域要因]		近隣地域の地域要因の変動は特に無いが、選好性の弱い地域の地価は未だ下落傾向に有る。						
					[個別的要因]		個別的要因に変動はない。						
	変動率 年間 -1.6 % 半年間 %												